

# ラカジェ・ポウ ウルグアイ大統領の訪日

## —日・ウルグアイ関係の「新たな100年の幕開け」の年に際して

奥田 航（外務省中南米局南米課 外務事務官）

### はじめに

2022年10月27日から29日の日程でウルグアイのラカジェ・ポウ大統領が実務訪問賓客として訪日した。2021年に日本とウルグアイが外交関係樹立100周年を迎えたことを踏まえ、2022年は両国間関係の「新たな100年の幕開け」の年と位置付け、更なる関係強化を図っている中での時機を得た大統領訪日であった。ウルグアイの現職大統領の訪日は、2015年のバスケス大統領（以下、文中の肩書はいずれも当時のもの）の訪日以来、7年ぶり、日・ウルグアイ首脳会談は、安倍総理大臣が日本の総理大臣として初めてウルグアイを訪問した2018年から4年ぶりの実現であった。

2泊3日というタイトなスケジュールながら、首脳会談及びワーキングランチや、天皇陛下による御会見、日本貿易振興機構（JETRO）ビジネスフォーラムなどが実施されたことに加え、ブスティージョ外務大臣をはじめ、大統領に同行して訪日した4人の閣僚が日本の各カウンターパートと会談・意見交換を行うなど、非常に充実した日程となった。

本稿では、初めにウルグアイという国及びラカジェ・ポウ大統領について紹介したのち、今回の大統領訪日の概要とその成果について述べたい。また、大統領に同行して訪日した各閣僚の日程についても触れてみたい。

### 高いポテンシャルを持つ国ウルグアイと

#### ラカジェ・ポウ大統領について

ウルグアイは、アルゼンチンとブラジルに挟まれた共和制国家であり、国土はおよそ日本の半分、人口は350万人<sup>1</sup>に届かないほどである。一人当たりのGDPは約1万7000米ドルと南米で最も高く、民主主義指数はラテンアメリカ（中南米）のみならず世界でも上位である。また、中南米の物流の要衝に位置し、メルコスール（南米南部共同市場）の一員でもある。

ウルグアイは、伝統的に農業国であり、特に畜産

が盛んである。牛は人口の3倍以上、羊は2倍近く飼育されているほどである。一方、水素エネルギー、IT等新たな分野に対するポテンシャルも注目されている。また、政治的・経済的な安定性に加えて、汚職率の低さや投資優遇措置を認めるフリーゾーンの存在により、北米や欧州企業から高い関心を集めている。さらに、ウルグアイは、電力の95%以上が再生可能エネルギーによって供給されているなど、再エネ先進国でもある。

2020年3月には、15年間続いていた左派政権からの政権交代を果たし、中道右派のラカジェ・ポウ政権が発足した。就任直後から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策が高く評価され、これまで国民からの支持も安定している。経済政策では、自由貿易、市場開放を重視しており、対外政策では民主主義、法の支配、人権擁護などの価値外交を展開している。現在49歳のラカジェ・ポウ大統領は、1990年から95年まで大統領を務めた父を持つなど、政治家一族の出身である。同大統領は、アジア諸国のうち最初に訪問する国を日本としたいとして、外交関係樹立100周年の昨年以來、訪日を切望していた。

日本とウルグアイは、1921年に外交関係を樹立。その100年後の昨年2021年には、茂木外務大臣が日本の外務大臣として35年ぶりにウルグアイを訪問したほか、両国の外交関係樹立100周年を祝して様々な記念事業が実施された。ウルグアイからは、2019年に対日輸出が解禁された牛肉が多く日本に輸出されており、最近ではスーパーの店舗などでも目にする事ができる。また、300人ほどの在留邦人と、470人近い日系人の存在は、長年にわたる日・ウルグアイの友好関係の礎になっている<sup>2</sup>。

### 次の100年の幕開けにあたって、日・ウルグアイ首脳会談、ワーキングランチ、共同声明

10月28日、4年ぶりの実施となった日・ウルグアイ間の首脳会談及びワーキングランチでは、両国の二国間関係のみならず、国際場裡における協力や地

域・国際情勢といった幅広い分野について意見交換が行われた<sup>3</sup>。

両首脳は、二国間関係については、政府間で二国間関係を中心に議論する合同委員会の立ち上げやデジタル分野における官民協力の促進について確認した。また、二国間経済関係については、外交関係樹立100周年を迎えた2021年に税関相互支援協定や租税条約が発効したことを踏まえ、両国間の投資・経済交流の一層の促進への期待が示された。さらに、両首脳は、今般導入が決定されたワーキング・ホリデー制度の開始を歓迎した。同制度は、文字どおり両国の次の100年を担う青少年の交流や相互理解促進に資するものである。

国際場裡における協力や地域・国際情勢においては、両首脳は、世界のどこであれ、力による一方的な現状変更の試みを許してはならない点で一致した。また、両首脳は、ロシアによるウクライナ侵略を強く非難するとともに、ロシアによる核の脅しは断じて受け入れられないことを確認した。ウルグアイは、ロシアによる侵略に関する国連総会での一連の決議にて、日本と立場を同じくしており、一貫し

てロシアを非難する姿勢をとっている<sup>4</sup>。

そして、両首脳は、東アジア情勢についても議論し、核・ミサイル問題や拉致問題を含む北朝鮮への対応について引き続きの連携を確認した。まさに首脳会談の最中にも北朝鮮からミサイルが2発発射される中<sup>5</sup>、両首脳は、北朝鮮による進行中の核兵器及び弾道ミサイルの開発に対し非難するとともに国際社会による国連安保理決議の完全な履行の重要性を強調した。さらに、両首脳は、核兵器不拡散条約（NPT）体制の維持・強化を含めた「核兵器のない世界」の実現や安保理改革を含む国連の機能強化等、国際的な諸課題について協力していくことで一致した。

加えて、両首脳は、「次の100年に向けた日本とウルグアイとの間の二国間関係強化のための措置」と題した日・ウルグアイ共同声明を発出した。同声明は、自由で開かれた国際秩序の実現、持続可能な経済発展、人的交流の再活性化、国際場裡における協力を含む29もの項目に及ぶ網羅的かつ多面的な内容となっている。このように、国際場裡における協力や地域・国際情勢における連携が確認されたのは、両国が地理的に地球の反対側に位置しようとも、自由、民主主義、法の支配などの基本的価値によって結ばれており、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化する上で重要なパートナーであることの証左であるといえる。

### 天皇陛下の御会見からラグビー代表選観戦まで、ラカジェ・ポウ大統領の日程

10月27日にはJETRO主催で「日本・ウルグアイビジネスフォーラム」が開催され、大統領をはじめ各大臣が出席したほか、ウルグアイの関連団体・企業も参加した<sup>6</sup>。大統領からは、ウルグアイが世界の食料供給国としてだけでなく、昨今はITのハブ拠点としての役割を担っていることについて紹介があったほか、ウルグアイの環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）加入への関心も示された。

28日朝には、日本の国会議員によって構成される日・ウルグアイ友好議員連盟主催の朝食会に大統領及び各大臣が参加し、交流を深めた<sup>7</sup>。昼頃に首脳会談及びワーキングランチが行われた後、皇居・宮殿において、天皇陛下はラカジェ・ポウ大統領と御会見された。夜には、在京ウルグアイ大使主催レセプションが開かれ、大統領一行が出席したほか、日



写真1：儀じょう隊による儀礼（内閣広報室提供）



写真2：握手を交わす日・ウルグアイ両首脳（内閣広報室提供）

本外務省からは秋本外務大臣政務官が参加した。官民の関係者が招待され、赤身と高い品質が特徴のウルグアイ産牛肉や、近年人気を博しているウルグアイワインがふるまわれた。ラカジェ・ポウ大統領は、壇上での挨拶において、日・ウルグアイの長年における友好関係を強調した上で、ウルグアイの経済的ポテンシャルを丁寧に説明するとともに日本からの投資への期待を示した。

日本滞在最終日となった29日には、大統領は、日本ラグビーフットボール協会の招待により、国立競技場で行われたラグビー日本代表対ニュージーランド代表の試合を観戦した。余談ではあるが、首脳の間では贈呈品の交換が行われる場合がある。今回の訪日では、大統領が学生時代に名門校でラグビー部に所属していたことを踏まえ、岸田総理からラグビー日本代表のユニフォームとボールが贈呈された。対ニュージーランド代表戦では強豪相手に日本代表は善戦し、大統領もつかの間の息抜きを楽しんだことであろう。その夜、大統領は今回の訪日を振り返り、「Muy contento（非常に満足である）」と言いつつ、帰路について話した。

## 両国間の幅広い分野における連携強化、

### 日・ウルグアイ外相会談及び各閣僚の動向

今回のラカジェ・ポウ大統領訪日には、ウルグアイの日本重視の表れの一つとして、4人もの閣僚が同行していた。ブステイージョ外務大臣、アルベレチェ経済財務大臣、パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣、マツス農牧水産大臣である。

ブステイージョ外務大臣は、林外務大臣と外相会談を行い、首脳会談及びワーキングランチの内容を踏まえ、二国間関係深化の重要性や国際場裡にお

ける引き続きの連携を確認した。両大臣は今年(2022年)2月にテレビ会談を行っていたが、今回が初の対面での会談となった。なお、ブステイージョ外務大臣は、日本滞在期間中常に笑顔を絶やさず、非常に人当たりが良い印象を受けた。

その他の閣僚も日本の各カウンターパートと会談を行った。アルベレチェ経済財務大臣は国際協力銀行(JBIC)の林総裁と会談<sup>8</sup>を行ったほか、経団連の中南米地域委員会(加瀬委員長)との懇談会に参加<sup>9</sup>した。パガニーニ工業エネルギー鉱業大臣は、寺田総務大臣と5G分野等の協力<sup>10</sup>について、そして里見経済産業大臣政務官と水素をはじめとするエネルギー分野等について意見交換<sup>11</sup>を行った。マツス農牧水産大臣は野村農林水産大臣と会談を行い、農林水産分野における二国間の課題等について意見交換を行った<sup>12</sup>。

## さいごに

先述のとおり、今回のラカジェ・ポウ大統領の訪日では、国際場裡における協力や二国間関係強化に向けた非常に有意義な意見交換が行われた。現在の国際情勢は、力による一方的な現状変更の試み、世界的物価高、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるサプライチェーンの分断、それ以前からの自国第一主義、権威主義体制の台頭など、先行きが不透明な状況にある。このような局面において、今回の大統領訪日は、国際協調主義、法の支配の重視、自由貿易等、日本と価値を共有し、自由で開かれた国際秩序を実現するためのパートナーとしてウルグアイの重要性が再認識される機会となった。日本とウルグアイの「新たな100年の幕開け」にあたる本年の大統領訪日が、更なる両国関係強化の端緒となることを願ってやまない。

(本稿は個人の見解に基づき執筆したものであり、必ずしも外務省中南米局の見解を示すものではない。)

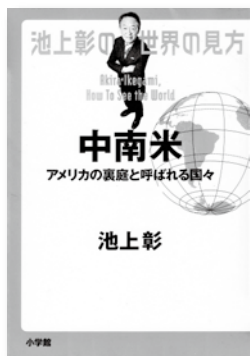


写真3：日・ウルグアイ外相会談(外務省提供)

- 1 The World Bank (2021) "The World Bank DATA, Uruguay"  
<https://data.worldbank.org/country/uruguay>
- 2 外務省在ウルグアイ日本大使館(2020)『在留邦人・日系人』  
[https://www.uy.emb-japan.go.jp/itpr\\_ja/b\\_000010.html](https://www.uy.emb-japan.go.jp/itpr_ja/b_000010.html)
- 3 外務省ウルグアイ東方共和国(2022)  
『日・ウルグアイ首脳会談及びワーキングランチ』  
[https://www.mofa.go.jp/mofaj/la\\_c/sa/uy/page3\\_003491.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/sa/uy/page3_003491.html)
- 4 United Nations Digital Library (2022)

- Aggression against Ukraine : resolution / adopted by the General Assembly  
<https://digitallibrary.un.org/record/3959039?ln=en>
- Humanitarian consequences of the aggression against Ukraine : resolution / adopted by the General Assembly  
<https://digitallibrary.un.org/record/3965954?ln=en>
- Suspension of the rights of membership of the Russian Federation in the Human Rights Council : resolution / adopted by the General Assembly  
<https://digitallibrary.un.org/record/3967778?ln=en>
- Territorial integrity of Ukraine : defending the principles of the Charter of the United Nations : draft resolution  
<https://digitallibrary.un.org/record/3989859>
- Furtherance of remedy and reparation for aggression against Ukraine : resolution / adopted by the General Assembly  
<https://digitallibrary.un.org/record/3994052?ln=en>
- 5 防衛相・自衛隊 (2022)  
 『北朝鮮のミサイル当関連情報令和4年10月28日』  
<https://www.mod.go.jp/j/press/news/2022/10/28c.html>
- 6 日本貿易振興機構 ビジネス短信 (2022)  
 『ウルグアイのラカジェ・ボウ大統領が訪日、貿易拡大と環境への取り組み推進を強調』  
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/10/f601046913cc3e4e.html>
- 7 Cancillería Uruguay (2022)  
[https://twitter.com/mrree\\_uruguay/status/1585987860649361410?s=46&t=Ec-e\\_Sdf04NrbYJtqtRm\\_g](https://twitter.com/mrree_uruguay/status/1585987860649361410?s=46&t=Ec-e_Sdf04NrbYJtqtRm_g)
- 8 Ministerio de Economía y Finanzas (2022)  
 “Arbeleche se reunió con gobernador del Banco Japonés para la Cooperación Internacional”  
<https://www.gub.uy/ministerio-economia-finanzas/comunicacion/noticias/arbeleche-se-reunio-gobernador-del-banco-japones-para-cooperacion>
- 9 一般社団法人日本経済団体連合会 (2022)  
 『週刊経団連タイムス』2022年11月17日 No.3567  
 『アルベレチェ・ウルグアイ経済財務相との懇談会を開催』  
[https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2022/1117\\_05.html](https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2022/1117_05.html)
- 10 総務省大臣・副大臣・大臣政務官の動き (2022)  
 『バガニーニ ウルグアイ工業エネルギー鉱業大臣による寺田総務大臣への訪問 (令和4年10月28日)』  
[https://www.soumu.go.jp/photo\\_gallery/02koho03\\_03004117.html](https://www.soumu.go.jp/photo_gallery/02koho03_03004117.html)
- 11 経済産業省ニュースリリース (2022)  
 『里見経済産業大臣政務官は、ウルグアイのバガニーニ・産業エネルギー鉱業大臣と会談を行いました』  
<https://www.meti.go.jp/press/2022/10/20221031006/20221031006.html>
- 12 農林水産省大臣の動き (2022)  
 『10月28日 マツス・ウルグアイ農牧水産大臣との会談』  
[https://www.maff.go.jp/j/p\\_gal/min/221028.html](https://www.maff.go.jp/j/p_gal/min/221028.html)
- (おくだ わたる 外務省中南米局南米課 外務事務官)

## ラテンアメリカ参考図書案内



## 『池上彰の世界の見方 中南米 — アメリカの裏庭と呼ばれる国々』

池上 彰 小学館

2022年12月 240頁 1,400円+税 ISBN978-4-0938-8871-4

NHK 出身で国際問題の解説者、フリージャーナリストとして活躍している著者が、2022年3月に都立新宿高校で生徒と質疑応答をしながら行った中南米概論の講義をまとめたもの。欧米に従属させられ植民地となり、独立後もメキシコはスペイン支配時の領土の約半分を米国に奪われたこと、ソ連の核兵器持ち込みをめぐるキューバ危機の後1967年にはラテンアメリカ・カリブ核兵器禁止条約締結によって中南米での核の脅威がなくなったこと、米国が運河建設権を得るためにコロンビアからパナマを独立させるなど「米国の裏庭」化してきたことなどを歴史・地政学から概述した後、現在は中国が中南米への投融資を増やし貿易の相互関係を拡大させていること、長く対立していたアルゼンチンとブラジルが和解して接近してきたこと、ブラジルでは軍政、左派の労働者党政権の後「ブラジルのトランプ」ことボルソナーロが大統領となり、2022年10月の選挙では再選されず労働者党のルーラが当選したことまで言及している。最後に日系人の関わりについて米国での「日本人排斥法」以降ブラジル等への日本人移民が増大し、第二次世界大戦終了後にブラジルでは「勝ち組・負け組」抗争があったこと、ペルーにおいてはフジモリが大統領になったこと、日本に帰ってきた日系人の受け入れ問題に至るまで、要点を分かり易く解説している。

米国が中南米各地やハワイ王国併合で行ってきた干渉や圧力の数々とその時の理屈づけは、現在のロシアによるウクライナ軍事進攻での姿と重なるとの指摘は当を得ている。

(桜井 敏浩)